

歴史（明電舎）

大崎の歴史に欠かせない企業が「明電舎」です。

明電舎は、山口県出身の**重宗芳水**が1897（明治30）年、京橋区船松町（現・中央区湊三丁目）で開設した建坪20余の電機工場から始まりました。

日本初の回転界磁型三相交流発電機や「明電舎モートル」の開発によって、国産モーターの道を切り拓き、大正2年（1913年）に大崎の地へ移転し工場も拡大した芳水は、大崎が工業地として発展する礎となったのです。国鉄大崎駅からは、資材などを運ぶ専用の引込線が引かれるほどでした。

芳水は、小学校が不足していることを不憫に思い学校建設の想いを強く持ちましたが、大正6年に逝去してしまいました。そして、二代目社長の「**重宗たけ子**」が芳水の遺志を継ぎ、大正7年（1918年）に「**芳水尋常小学校**」（現「品川区立芳水小学校」）が創設したのです。

昭和の後半には、大崎が副都心として指定される中であって、昭和55年には地区内に集積する中小工場の土地利用転換が進み再開発の機運が高まり、昭和60年（1985年）に、大崎工場の機能移転が完了しました。その跡地には、皆さんご存知の大崎のランドマークの「**シンクパーク**」が建設されました。



1. 明電舎の概要 4/31

創設当時の大崎工場

大崎工場 落成披露式
1913年(大正4年)
[現在の大崎本社の地]

明電舎の創業は、1897年(明治30年)
「モートルの明電」として礎を築きました。

大崎工場と大崎駅
1914年(大正5年)

